東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008 年 10 月 10 日

許す人であること

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンで勧められているよい徳の基本の一つが、許す人であることです。ご存知のように許すこととは、人々に対し、その否定的もしくは悪い行いに対し、それが可能であるにもかかわらず仕返しを行わず、罪がある人を許すことです。この行為は我欲にとって重いものであったとしても、クルアーンでは篤信を持つ人の特質であり、人を天国へと導く行為であると示されているのです。

「順境においてもまた逆境にあっても、（主の贈物を施しに）使う者、怒りを抑えて人びとを寛容する者、本当にアッラーは、善い行いをなす者を愛でられる。」（イムラーン家章第１３４節）預言者ムハンマドも、怒りを抑えることを真の勇者としての振舞いであるとしておられます。「勇者というのはレスリングで相手を倒す者のことではない。真の勇者とは、怒った時に怒りを抑えることができる者のことである。」（ブハーリーによる伝承）

親愛なるムスリムの皆様。人間関係の基本は、相互の愛情と敬意です。この素晴らしい特性が存在しないところでは、衝突や喧嘩、敵対関係がいつでも起こり得るのです。とてもささいな、といえるような原因によって、仕返しをしてやろうという感覚により、時として人は互いを傷つけあうのです。しかし、許すという行為のもたらす幸福は、報復行為のもたらす喜びよりもより長く続き、また結果から考えても尊いものであるのです。

怒りや報復に固辞することは人を常に不快にすると同様、肉体的、精神的健康の観点からも甚大な害をもたらすことがあります。一瞬の怒りによって愛する人々を傷つけ、親友を失い、そして後悔したことは私たち皆に多くある経験でしょう。

許すことを、敗北であったり誇りを傷つけるものであると考える人もいるかもしれません。しかし許すことは下であることを認めることではなく、名誉を守ることです。なぜならアッラーの使徒は次のように仰せられているのです。「不正にあった時に忍耐する者は、アッラーがその名誉を高めてくださる」

親愛なるムスリムの皆様。許すことにも、当然限界や基準があります。アッラーや預言者が私たちに勧められている許すという行為は、ただ個人的な私たちの権利に関するものです。なぜなら悪事を大目に見ることは時により深刻な悪事をもたらす結果となり得るからです。従って私たちは私たち個人、そして現世的な私たちの利益に対して行われる悪事のみを許すことができるのです。これに対し、宗教的、民族的価値、統一、生命に関して行われる悪いことに関しては最大限に敏感である必要があります。このような状態では、私たちの教えの命ずるところである、「善を命じ悪から遠ざける」という務めを果たすべきなのです。

親愛なるムスリマの皆様。私たちは皆、我欲を持っています。私たち個人に対して行なわれる悪事を許すこと、特に心から許すことは容易ではありません。一方で、安らいだ生活を送る為には、その成熟度に達する必要があるのです。なぜならアッラーのお許しを得る道の一つが、他者を許すことであるからです。これは同時に預言者ムハンマドの美徳でもあります。アッラーはこの件について預言者ムハンマドに次のように呼びかけておられます。「あなたは許しの道を行きなさい、善を命じ、無知から顔を背けなさい」

預言者ムハンマドもこの崇高なる呼びかけに答え、ご自身に対してなされる悪事には報復したり呪ったりする代わりに、次のようなドゥアーを行われたのです。「アッラーよ、わが民をお許しになってください。彼らは何をしているか分かっていないのです」

許す人であることは、愛情、慈しみ、忍耐、そして寛容といったよい徳のしるしです。私たちはアッラーのご承認を、現世と来世の幸福を求める信者としてまず、許されるべき状態になるような誤りから遠ざかりましょう。私たち個人に対して行なわれる、私たちを悲しませ傷つけるような行為に対しては、その報奨をアッラーから望みつつ、許すことを学びましょう。アッラーが私たち皆に許すことのできる心を与えてくださいますように、そしてご自身のお許しを与えてくださいますように。